バングラデシュ　情報発信セミナー

～物流事情～

YUSEN LOGISTICS (BANGLADESH) LTD.
GENERAL MANAGER
工藤　慶大
2025年10月20日

バングラデシュ　国際物流ゲート

- 主な港（取扱割合）
- チャットグラム (90%) 、モングラ (10%)

- チャットグラム港は河川港のため、フィーダー船のみが運行可能。シンガポール、ポートケラン、コロンボ等でコンテナを別の船に積みかえ

航海日数
例）東京ーチャットグラム：約20日

- 国際空港
- ダッカ、チャットグラム、シレット
  国際貨物の取扱は主にダッカ

- 海外への直行便は約40都市（日本への直行便なし）

日本ーダッカ間経由ルート
バンコク(TG)、香港(CX)、クアラルンプール(MH)、シンガポール(SQ)、広州(CZ)、北京（CA)等

- インドとの国境に税関が設置されており、日々、貨物が行き来している。

25年5月以降、インド政府により衣料品を含む多くの品目の陸上輸送が禁止されております

- インド経由でネパール、ブータンへの輸送は可能。

チャットグラム港

【チャットグラム港(旧：チッタゴン港)データ】

・年間取扱：327万TEU
(2024年,2023年比7.42%増)
・世界港湾取扱ランキング64位
・輸出貨物の多くは工場バンニングではなくチャットグラム港周辺の**CFS倉庫**へ製品を輸送後にコンテナバンニングを実施、各国へ輸送されております。
・輸入貨物については、特定65品目は周辺CFSへ転送、その他多くは港内でコンテナのデバンニングが行われます。輸入通関後にトラックで貨物を引き取り配送。

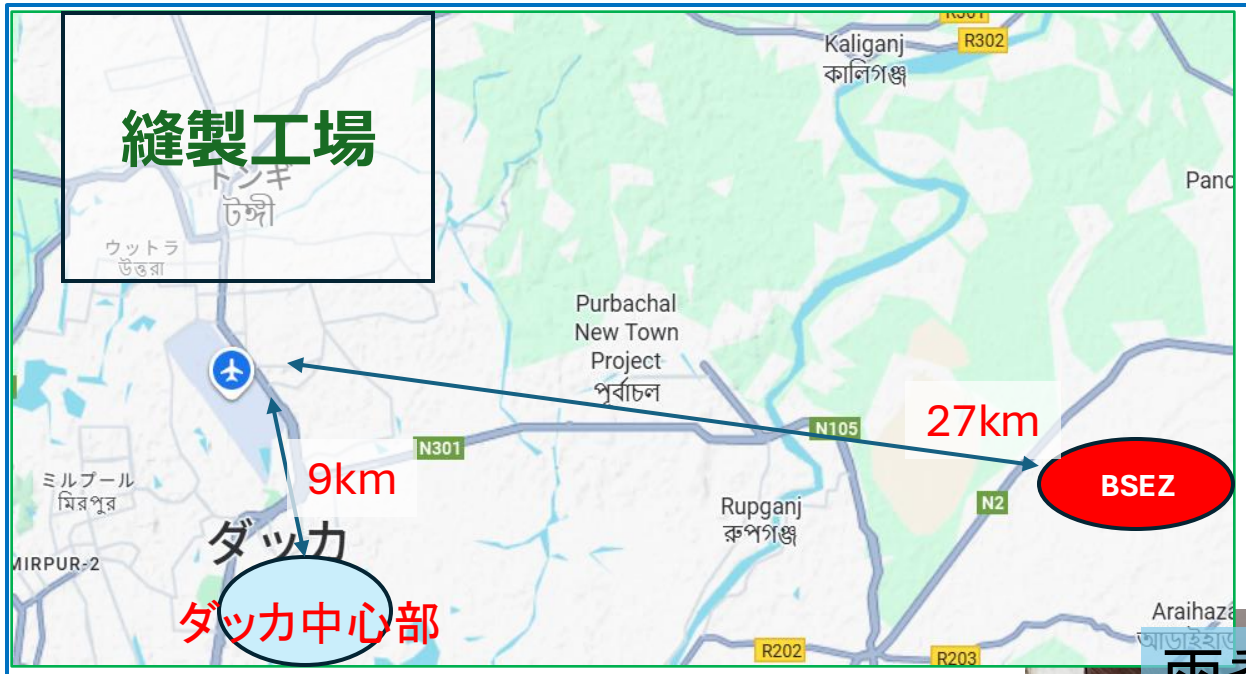
港内でのデバンニング

・コンテナーによる配送先直送も税関への事前承認で可能となりますが、ダッカ市内へは片道270キロと大都市圏への配送は22：00～6：00のみと輸送規制があるため、トラックでの輸送が主として行われております。

【チッタゴンターミナル】
航海中のコンテナ船積載可能本数：1,000～2,000 TEU

ダッカ空港

2025年10月18日　ダッカ空港輸入貨物上屋　全焼　輸入貨物受託停止中



輸入貨物トラックドック

雨季（6月～10月）には貨物に防水対策が必要

空港ランプ

輸入貨物トラックドック

輸入貨物トラックドック

❑ 課題

空輸

＊輸出・輸入共にビーマンバングラデシュ航空が取扱を独占。この独占が発展の阻害要因の一つ。
＊輸出・輸入の空港上屋が狭く、空港ランプで野ざらしされる時間が長い
＊輸出貨物の物流会社によるULD搬入不可
＊フォークリフトが少なく、大型貨物の取扱に不安
＊貨物便が少なく、貨物便の利用が必要な大型貨物の輸送日数が長い

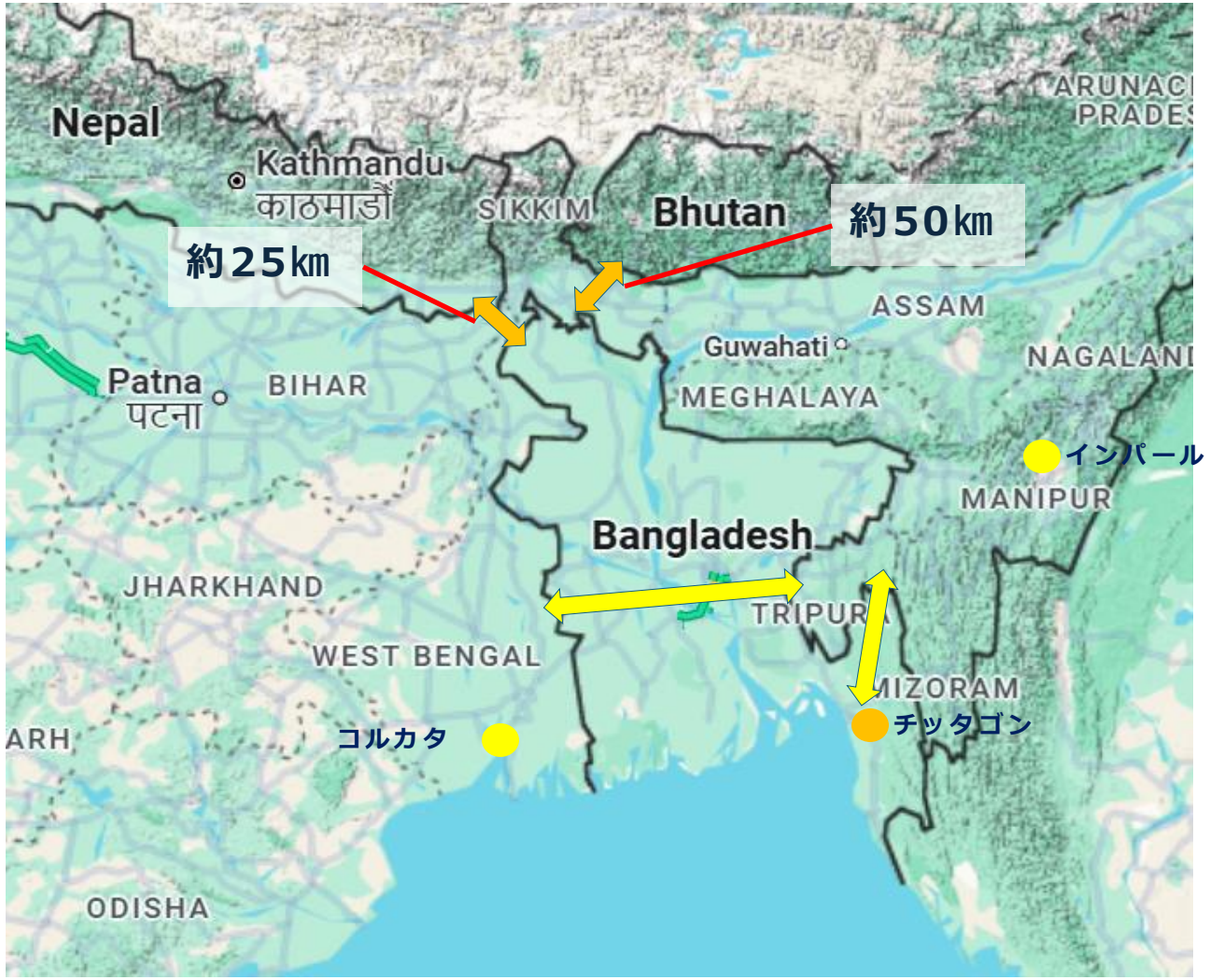
海上

＊チャットグラム港が河川港で港内が狭く、スペースに余裕がない。港内の混雑が多発。
＊港湾周辺道路の渋滞が多発。雨天時には道路が冠水し、更なる渋滞。
＊取扱が増えていく中でターミナルの増築が急務
＊パテンガターミナルへのクレーンの早期導入が必要
＊40年ぶりに港湾料金の大幅値上げ

通関

＊意図的な税番変更　＊高額な輸入税
＊マニュアル申請、属人的な作業による長期輸入通関、これによる港、空港での保管料の発生
＊予備審査制度、HS CODE事前教示制度無し
＊無償商品に対する高額輸入関税の発生
＊スピードマネーの発生
＊輸入通関時、原産地証明書必須
＊中古品輸入時には10年以上耐用可能であることが記載された証明書が必要

❑地政学的動向；印バ関係 … 悪化、バングラデシュの選挙後にどうなるか？



25年5月以降、インド政府により衣料品を含む多くの品目の陸上輸送が禁止されております。

代替え輸送としては、海上輸送が主でありますが、輸送時間が大幅に増加。

【輸送時間】

陸送（ダッカ～デリー）： 15～20日

海上（チッタゴン～コロンボ経由コルカタ港～デリー）
：27～35日

選挙後の新政府によるインド政府との交渉により当該規制が緩和されることを期待。

❑ 注目すべき動き ～港の拡張～

[マタバリ深海港プロジェクト]
フェーズ１ パッケージ１：
日系企業合弁
（五洋建設様/東亜建設工業様）
工期: 42か月
稼働開始: 2029年？
最大積載本船: 8,000TEU

【パテンガターミナル】
使用船社：マースク(25年10月現在)
24年6月から輸出、25年3月から
輸入にも使用開始

年間取扱可能本数：
250,000 TEU => 26年にクレーン
導入予定 600,000 TEU

【ベイターミナル】
2コンテナターミナルと
多目的ターミナルを含む
４つのターミナル建設予定
工期：約6年
最大積載本船: 2,000TEU

❑ 注目すべき動き　～ダッカ空港新貨物地区～

ダッカ空港に第３ターミナル並びに新貨物地区が開業予定

【新貨物地区】
輸出用貨物上屋：　取扱容量　547,000トン/年
輸入用貨物上屋：　取扱容量　273,000トン/年

【既存施設】
輸出用貨物上屋：　取扱容量　256,000トン/年
輸入用貨物上屋：　取扱容量　75,000トン/年

上屋が大幅に拡張、それぞれに自動倉庫が設置されており、確実な貨物の管理とハンドリング改善が期待されます。

YUSEN LOGISTICS (BANGLADESH) LTD.　概要

従業員
（日本人駐在員2名）
66

本社オフィス
1 Dhaka

営業事務所
2 Dhaka, Chittagong

倉庫
4

設立：2012年7月
100%日本郵船グループ法人

- AIR
- SEA
- CUSTOMS CLEARANCE
- DOMESTIC TRANSPORT & WAREHOUSE

©NYK Group. All rights reserved.

❑ Q & A

① 航空貨物のダッカでの輸入手続きでは、IGMの不備(Consigneeミス、BIN間違え、品名欠落等）により、AWB、他通関書類とのディスクレが生じ、通関が大幅に停滞する事が頻発。これの有効な対策があれば教えてください。

回答）輸出前にL/C、インボイスの内容を輸入者様と事前確認。AWBもドラフトを発行して確認。

②チッタゴンの輸入通関の税関検査において、輸入貨物をデジタルスケールで一個ずつ計測し、パッキングリストと１グラム以下の差異でも、高額な罰金(関税、VAT等の２倍以上）を一方的に課し、書類修正の機会も一切与えられません。このような通関環境はバングラデッシュ向けの貿易リスクを高めていると考えますが、このような通関ハラスメントは問題視されないのでしょうか？

回答）税関検査による不要な費用が発生することはあります。このような悪しき慣習についてはBangladesh Investment Development Authority(BIDA)やNational Board of Revenue(NBR)への提言していく必要があると考えます。

③コールドチェーン（冷蔵冷凍倉庫＆輸送）市場について

回答）正確な数字ではありませんが、冷蔵倉庫は大小300か所程、冷凍倉庫は80か所程あり。

主な場所：ダッカ、チッタゴン、ガジプール、マニクガンジ等

リーファートラックも使用されている。

【課題】

・道路環境の問題、建築費用が高い、規則を理解している人材が少ない、洪水等の災害　等

都市部では冷蔵、冷凍庫が広まっているが、郊外ではまだまだ広まっていない。

需要はもう少し時間が掛かるが、将来伸びる余地あり。

④国内物流が抱える課題

回答）郊外の道路環境の問題、洪水、渋滞が各地で多発

ご清聴ありがとうございました

ধন্যবাদ"

【お問い合わせ先】
関藤　和晃（Director）
M: +880-1322-821958
E: kazuaki.sekito@bd.yusen-logistics.com
工藤　慶大（General Manager）
M: +88-01777-739288
E: keita.kudo@bd.yusen-logistics.com

Copyright © 2025 Yusen Logistics. All rights reserved